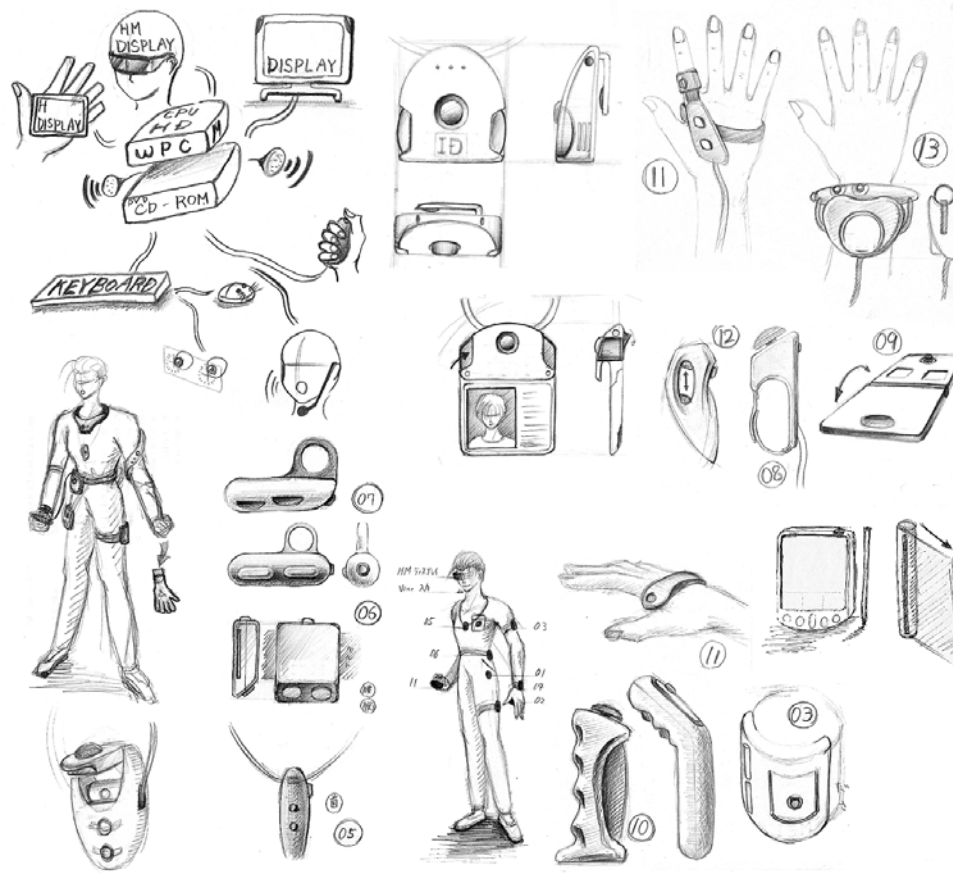


「ポータブルポインティングデバイスの造形検討」

人の身体部位毎に着目した、造形検討

アイデアスケッチを行いながら、本提案のコンセプトを具現化する構造・造形のアイデア展開を行った。いくつかの使用スタイルを見出したが、大きく「にぎりスタイル」と「かまえスタイル」が本ツールの使用スタイルの軸であることを明かにした。この軸を基に、スタディモデルの制作を通して、具体的な構造・造形の決定を行った。



アイデア展開

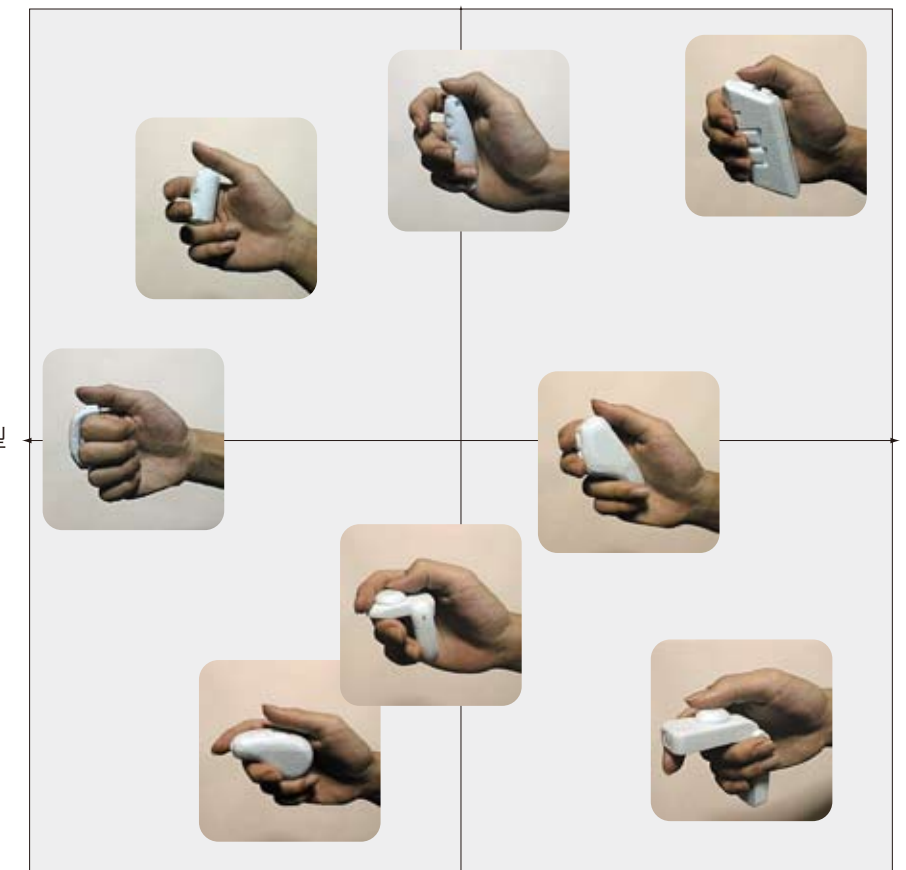
選択行為によるテキスト入力を前提にして。

- ⑬有線巻き取り式収納。腕時計装着部分に未使用時固定。
 - ⑫人さし指による内壁上下ボタン。デスクトップの階層化。
 - ⑪邪魔にならないように、ボディは手の甲に、装着。
 - ⑩5本の指を使用して32通りの入力を行う。
 - ⑨カード式折り畳みコンパクト形状。
 - 利用者の指のサイズを選ばない、ベルトタイプ。
 - ⑦人さし指巻きリング状。使用時に手の中に入れる。
 - ⑥腰につける。
 - ⑤首にかける。
 - ④手首につける。
 - ③腕につける。
- 使うときに浮いてくる。手の中に入れる。
ポケットにしまう。

モックアップによるサイズ感覚の検討



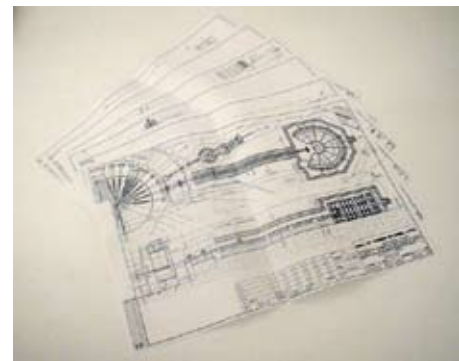
にぎりスタイル



かまえスタイル

モックアップによる握りやすさの検討

3面図による 詳細な造形、構造の検討



合計3枚の図面で設計を行った

